祝 成人

希望と責任を胸に抱き 未来に羽ばたく

今年成人式を迎えたみなさん

お盆の八月十五日、沢海の農村環境改善センターで、成人式が開催され、大人の仲間入りをした若者達を祝いました。

今年の該当者は百五十四名で、当日の出席者は百名でした。出席者の服装は夏らしい軽装が目立っており、久しぶりに会えた友達と懐かしそうに会話する姿が、会場のあちらこちらで見られました。

式典では浅見村長から「二十歳になり法律的にも成人の一員として認められた今、社会が求めるような人として知性を磨き、心身を練磨して頑張ってください」とはなむけの言葉が贈られました。

それに応え、新成人を代表し、四名が所感発表を行い、成人を迎えての希望や心構えを新たにしていました。

このあと、中学校時代の担任の先生から当時の思い出話やはなむけの言葉があり、成人の皆さんは懐かしそうに聞いていました。

木津
宇野みゆきさん

今日から私達は大人の仲間入りをし、晴れて一人前ということになりました。一人前として世の中が認めてくれるということは、私達が一人前の自覚と責任をもって世の中に臨まなければならないということです。分かり切った話ですが、一人前を主張できるからには、相手からも一人前を要求されるということです。私達はこれから社会の中で権利と義務を合わせ持つことになりました。

今まで法律上、未成年、保護、保護者といった言葉で守られてきましたが、これからは成人とみなされます。それが選挙権や刑法の施行などです。また、最も身近に感じられるのは、飲酒や喫煙といったものでしょう。お酒やたばこは未成年にとっては、健康を害するものとして強く禁じられていましたが、二十歳を迎えた現在、誰のはばかりもなくお酒を飲み、たばこを吸うことができます。これは自分のことは自分自身が責任を持たなければならないということの現れであり、安易ではありますが、自分自身成人として認められた一瞬だと思います。

二十歳の誕生日の前日と当日で急に変わったことはありませんが、自分自身に対する責任感が大きくなっているのを日に日に感じます。人間的にはまだ未熟ですが、社会への使命感を持ち自分の言動に自信と責任を持てる人間になりたいと思います。

川根谷内
笹川　香さん

成人を迎えたと言っても特に変わりばえのしない生活の中で、何を意識するというわけでもありませんが、今この場にいる仲間達を見て、一緒に机を並べていた日からもう五年もたっていたのだと実感し、長い月日が過ぎたのだと感じています。

私は現在、亀田にあるスイミングスクールのインストラクターとして、様々な人を対象に水泳を教えていますが、仕事を通じていろいろなことを学ぶことができます。

例えば、一つの物事を教える場合でも、子供相手だったら目上の人を尊敬するという自然の態度から、こちらの言う事を素直に聞き入れ、指導は成立していくのですが、大人相手であったり、自分より年上の人である

と受け入れてもらうのは少し困難となりますが、相手に失礼のないように納得してもらう、これが成人との付き合いの中で大切になっていくと日々教えられます。

もう一つ教えられる事としては、大切な子供の命を預かる立場から生まれる責任感です。この事は仕事の上だけでなく、私達を含めた成人の方々が、社会的に弱い立場にいるお年寄りや障害者の方々を守って行かなければならない義務や責任にもつながるのではないかと思います。

私はこれらを心に据え、成人としての立場を認識したいと思います。

小杉
坂井　浩さん

横越中学校を卒業して、はや五年余り、あれから何度か会った人もいれば五年ぶりに会う人もいますが、五年前に比べればみんながそれぞれに個人差はあるでしょうが、成長されたことと思います。

中学生の時は校則もいろいろあって、やりたい事も自由に出来ない窮屈な時代で、早く卒業したいと誰もが一度や二度思ったことがあるでしょうが、今となっては不思議と良き思い出だけが残るものです。

「成人」とは、二十歳以上の人間のことですが、世間ではもう立派な大人として扱われます。かといって自分にその自覚があるのかと問われれば「ない」と答えるでしょう。また自覚があると思っていても本当はないのかもしれません。

しかし、今日この場でみなさんと成人式を迎え、改めて成人としての自覚を少しでもいいから持つように心掛けたいと思います。

今までは厄介な事から避けて生きてきた自分ですが、最近はそれではダメだと思うようになったし、もっと積極的に生きようと思います。

やりたい事は何でも自分でできる、それが成人というものでないでしょうか。ただしこのことは自分の行動に責任というものが、より一層要求されることを忘れてはならないと思います。

川根谷内
田中さなえさん

私はこの夏、二十歳の記念にサイパンへ一人旅に出かけました。

自分の責任においてどれだけやれるか試してみたかったからです。それと以前からダイビングのライセンスを取りたくて、それを取得することと、いろいろな人と交流する事を目標にして出発しました。

一日目は朝早くから夕方まで学課と実習があり、くたくただったのですが、せっかくサイパンへ来たのだからと思い、夜は町へ出歩きました。そこで私の勉強している中国語が気っ掛けで、中国人のおじさんと知り合い、観光客の約九割を日本人が占めているため日本語がわからないと商売にならないことを知りました。

二日目は海洋実習が始まりました。初めて潜った海はとても綺麗で、カラフルな熱帯魚がたくさんいて、叫びたいくらい感動しました。

三日目は最終日で、総仕上げの海洋実習でした。

この旅で普段の生活では接点のない人々と話をしたことで、とても視野が広がったと同時に、いかに自分が無知であるかを思い知らされました。

私は社会人になるまで、あと一年半ありますが、その間に幅広い知識を身につけようと思います。

今やろうと思っている事を後まわしにしていると、結局何もできずに年ばかりとってしまうものです。だから私は二十歳の今にしかできないような事に、どんどんチャレンジしていきたいと思います。

中学時代の先生からのお言葉

市村ひろみ先生
（当時３年１組）

当時の学級新聞を見て、昔のことがとても懐かしく思われました。これからは自分の人生を思いきり切り開いて欲しいと思います。

五十嵐　淳先生
（当時３年２組）

一番の思い出は、三年二組の皆さんと夏に間瀬へ海水浴へ行き、とれたてのカキを浜辺で食べたことです。これからは、同じ所で育ち学んだ絆を大切に、がんばって欲しいと思います。

金沢　俊道先生
（当時３年３組）

教師になって始めて来た横越中学校で、皆さんとは三年間の付き合いでした。一番の思い出は郡大会の野球試合の事です。これからは健康に気を付けて、がんばってください。

藤沢　時夫先生
（当時３年４組）

当時はお父さん役として、だいぶ皆さんを怒った気がします。一番の思い出は、運動会で胴上げをしてもらったこと。人生二十歳、これからもっと楽しいことを味わってください。